



学校からもらってきた「眼科で検査を受けるように」との通知で、初めて子どもの視力低下に気がつき、それも思った以上に下がっていて、驚きと不安を感じるお母さん方が多いようです。

学校での身体検査は、年に一〜二回実施されているところもあるようですが、多くは年一回が現状というところが多いです。

視力検査は、決していいかげんなものではないのですが、人数が多いために一人一人を診る時間が少なく、後ろで順番を待っているときに視力表を見たり、答えを覚えていたり、明るさや測定距離なども不十分ですので、必ずしも正確な視力とはいえないようです。

したがって、学校から通知された視力よりも、二〜三段階は悪いと思われたほうがよいでしょう。学校の検査で〇・八ぐらい見えているからといっ

てそのままにしていると、あとで取り返しのつかないことになります。

ですから、〇・八の場合は、〇・五〜〇・六ぐらいと思ってください。検査通知を持って眼科医や当センターに来る子どもも、正しい検査、測定をすると、大半が学校で測った視力よりも悪いという結果が出ています。

また、視力低下は、近視の場合だけでは限りません。遠視、弱視、乱視の場合もあります。

このように、学校での視力測定値は、あくまでもおおよその目安として受け止め、少しでもテレビの見方や遠くを見るときは、姿勢などから、「おかしいな？」と感じたときは、専門医に診てもらい、適切な処置をとることを勧めます。

身体検査まかせではなく、日ごろから視力低下防止を十分心がけましょう。

身体検査で気づくのでは遅い

●学校の視力測定値は不正確●

- ★学校での視力測定では、視力表を覚えるなどして正確な視力が得られない。
- ★学校での視力検査の目的は、黒板の字がいちばん後ろでも見える視力(0.7以上)があるかどうかを調べること。



●子どもの日常生活の変化に注意を●

